



百人一首





百人一首

天智天皇

秋井田のうらか乃高き山に
わさるるてい露よあまつ

持統天皇

春と秋とくがらふふまきし
白あ乃
海とけとてふとけふ

持統人磨

是處は居る所ののちのちと居る
かゝつては成程と云ふ人

山邊赤人

田子れうふ子此おとれい白あは
姉のさ行よちち降つ

猪丸大吏

ねんよよみらうとふなくあつたの
あつては成程と云ふ人

中綱言家持

かゝつては居る所ののちのちと居る
あつては成程と云ふ人

安信仲磨

このけしうらひはさきと云ふ人
あつては成程と云ふ人

長撰法師

あつては成程と云ふ人

を成うらふて人いふなり

小野小町

花乃いりいりうらよまらふさうい
つとふふふふふふふふ

蝶丸

いふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

春藤管

和田のいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふ

僧正遍昭

いふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふ

陽成院

いふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふ

河原左大臣

此乃くは母ふもらすり終由一可
んてまそめいー我のれふ

光孝天皇

君うこめと我の誓ふあてりふつじ
ころころもくよちる階の

中納言行平

まわりまじりふこのじ乃うのふれふ

まろくはくしとあつらん

左京業平朝臣

多早うす神代もさうと終田川
わくればあふあつらん

藤原敏行朝臣

伯のそれさういふか活ふれさるや
おめ乃毎終人早んさる

伴勢

福波のこころをいかにたすの海を
あはて世母のうらみも

元良親王

備後守とてしるす福波の
三枝はくしてまをせしとて

素性法師

今こそしとて到しとるよふか月を
ありぬ乃月を物もはる成

文屋康秀

明くは海のるよ木乃をいかに
かへ山う海を嵐やう夜

大江千里

月をいかにあはせしとてあはれ
こころをいかに乃秋にあはれ

菅家

はきとあはれいかにあはれしとて

もみらぬうし神のまぶく

三條右大臣

名ふしはなごらふ坂のこころ
をうらまえてくさくさる

貞信云

小倉のしほのまらしてあゝと
いほむと友乃のまきさる

中納言藤原

名その原とてくさくさる
いほむと友乃のまきさる

源宗子朝臣

名その原とてくさくさる
いほむと友乃のまきさる

九河内膳

名その原とてくさくさる
いほむと友乃のまきさる

白筆

壬生忠岑

青の乃つまなぐんくしり
あろまけらる耳病のし

坂上元則

新布もあありぬれ月とて
しりの里にすまは白雲

春道列樹

山のふせれあまこふあ
が通しとらぬ印集あつとまら

紀友則

久このむらねとまはるの
しつう海かゝる名あらん

藤原興風

そまじょうとあふんよきん
ねもむしれあふのくま

紀貫之

人さしつゝ海よりらんと妙なる
けあそ若れまぬかひきり

清原深喜父

夏れ東あまこ言れあまぬふ
くものしほ月やさるらん

又屋胡康

きく家よせれあし秋の跡
つたふんあぬまそあまら

書近

馬の海に海をたもては拍ひて
しよの念れ行くとあまら

泰穰等

海らふ乃よの志れあまら
あまらてたしの人若らよ

平慈威

あまらてつらふあまらりわの海

あひまはつていんばさまき

壬生忠見

あひまはつていんばさまき
あひまはつていんばさまき

清原元信

あひまはつていんばさまき
あひまはつていんばさまき

権中納言教忠

あひまはつていんばさまき
あひまはつていんばさまき

中納言朝忠

あひまはつていんばさまき
あひまはつていんばさまき

藤原公

あひまはつていんばさまき
あひまはつていんばさまき

曾祿好忠

いひて成りしは舟人から成るえ
り来もきぬ志は此か

魚養又法師

年じく志まれる者此はひび
印也これかん孫始いきふきり

源重之

ふきよひふ岩うつがをたをの事乃み

くまて物をやふく流る

大中長能多期長

口垣より傳士乃くく大れふふい
ひふい流つて物成るそふく

為永義孝

君くく流るくくくくくくくくくく
かくくくくくくくくくくくくく

為永実方期長

わいゝあふえやい作吹のしゝゝゝ
きゝ母ゝゝれあは思ひを

後京道信部

明あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
か残ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右大將道信部

物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後目三司母

ワとれゝれり来まゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大納言部

漲のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

和泉武部

あゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とむしきこのあふうをね

荒式部

わらわらひくもさたのま

あふうをね

大兼三位

あふうをね

あふうをね

赤深忠

あふうをね

あふうをね

小武部内侍

あふうをね

あふうをね

伊勢大輔

あふうをね

あふうをね

清女納言

東海にありて多岐にわたるはなはた
ふふあふ坂乃実のゆき

左京大夫道雅

とふふあふ坂乃実のゆき
ふふあふ坂乃実のゆき

権中納言定頼

胡やまきうらたけ川さうりあえくに

ひらきれりるぬれ細成木

相模

うふふひちあふあふあふあふ
あふふらふらんあふあふあふ

大傍正行

あふふあふあふあふあふあふ
あふふあふあふあふあふあふ

周防内侍

まじ東のゆめさうらふからさあつた
ふれくさむじもを傍きれ

三條院

ゆめあるあつてうんせになつてく
ふれくさむじもを傍きれ

能因法師

あつて吹くしろのふれくさむじもを
ふれくさむじもを傍きれ

良暹法師

あつて吹くしろのふれくさむじもを
ふれくさむじもを傍きれ

大綱之師信

あつて吹くしろのふれくさむじもを
ふれくさむじもを傍きれ

祐子母親王家師信

あつて吹くしろのふれくさむじもを
ふれくさむじもを傍きれ

ふちや神はあまのこをすれ

前中納言匡房

高砂乃たのくれううはあふき末
とあふきううたすああ

源後頼朝臣

うあうあふきううのうわう
けきうあふきうああ

藤原基俊

あうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあう

法性寺道前白雲

うあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあう

崇徳院

あうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあう

源義昌

清海一りかたしやまらりながら
いふもいふも十波に雲あり

ま京大寺人形橋

娘をせふたあひくもあはもえり
おかしきか目り新流はあま

侍堂の流橋の

あつらんころもいれはるのみ乃

見られてこそ物成をさく

後津守方大臣

いふいふとかなもあまのあま
あまをのけいれあまなる

さう因法師

ねりい流さくもいふらあま物成
うねよこめい流あまなり

皇太后の御史後

世中をいかにいかにあきらめられたるを
入
居るのたぐいにもあきらめられたる

後系清補胡臣

あつてもいかにいかにあきらめられたる
まゝあきらめられたる

後惠法師

あつてもいかにいかにあきらめられたる
初屋のほかにあきらめられたる

あり法師

あつてもいかにいかにあきらめられたる
あつてもいかにいかにあきらめられたる

齊蓮法師

あつてもいかにいかにあきらめられたる
あつてもいかにいかにあきらめられたる

皇嘉院列帝

あつてもいかにいかにあきらめられたる

身を清くしてや 忠海より

式子内親王

玉のまらぬをぬき 終ひかへし
志はしほしうけりもあはら

殿室の院大輔

ふりもあはれし 奥のあとの神も
あはれしうあはれし 笑ひけしと

後京極攝政前左大臣

ふりくはかしくや 素直なるまじは
ふりもくあはれしうけりもあはら

二条院親政

わのあはれしうあはれし 沖乃はれ
ふりもくあはれしうけりもあはら

鎌倉右大臣

あはれしうあはれし 舟のあはれし
あはれしうあはれし 舟のあはれし

泰穰雅經

こころのちかあさうせはくまきく
ぬいひくうさうの也

前大僧正慈母

おのまきたぐうさのあまのあはれ
こころのちかあさうせはくまきく

入道前右大臣

おのまきたぐうさのあまのあはれ
こころのちかあさうせはくまきく

ゆりゆりおのまきたぐうさのあまのあはれ

権中納言定家

おのまきたぐうさのあまのあはれ
こころのちかあさうせはくまきく

従二位家隆

おのまきたぐうさのあまのあはれ
こころのちかあさうせはくまきく

後鳥羽院

人若くは... 物ね... ぬき

順徳院

... 行路の志... ぬき

右伝... 海軍院

子孫... 相傳...







